



Q 教師は教えずに見守っていればよいのですか？

A 決して教えないということではありません。教師の役割が、一方的に「教える」だけでなく、子供たちの興味・関心を引き出したり、学びを支援したりする、いわゆる「伴走者」へ変化しているといえるでしょう。教師は、授業の中で子供たちに、「やってみたい、学びたい」と思える学びの必要感と、「失敗しても大丈夫！」という安心感を持たせることが大切です。

Q エージェンシーは幼児期から発揮されるものなのですか？

A 幼児教育施設では、幼児が自発的な活動としての遊びの中で、「やってみたいな」、「できるようになりたいな」という思いや願いを持ち、自分の力で考えたり、先生や友達にコツを尋ねたり、試行錯誤しながら挑戦したりする姿が見られます。まさに、エージェンシーを発揮している姿といえるでしょう。このような姿は、小・中・高と、さらにエージェンシーを発揮して学んでいくための基盤となります。



Q 「主体的・対話的で深い学び」とはどのような関係にありますか？

A 「主体的・対話的で深い学び」の充実には、エージェンシーの発揮が欠かせません。エージェンシーと学習指導要領の資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）は、深く関係します。子供たちは、もともと「自分で考え、友達と話し合い、決定して、行動する力」を持っています。当事者意識を持たせ、子供中心の学びを実現することで、「主体的・対話的で深い学び」がより充実していくと考えます。

Q 「非認知能力」の育成とは関連がありますか？

A 群馬県では、非認知能力の育成に向けた研究を進めています。テスト等で点数化できる認知能力に加えて、「失敗を恐れない心」や「人と関わる力」、「自分で考え、行動する力」等、客観的な点数にしにくい非認知能力を伸ばすことは、子供たちが持っている力を最大限に発揮するために大切です。非認知能力は、先生方が、これまでも授業や学校行事、部活動等、様々な場面で、子供たちを温かく励ましながら育ててきた力です。非認知能力を伸ばすことは、エージェンシーを発揮するために必要な要素の一つだと考えます。



Q 特別な支援や配慮を必要とする子供たちの学びには、どのようなことが大切ですか？

A 子供たちの的確な実態把握に基づき、学習集団や児童生徒の特性に応じた学習環境を整備し、「個別最適な学び」、「協働的な学び」を充実させることで、子供たち自身の「もっとやりたい」という気持ちを引き出すことが大切です。障害の有無、国籍、性差等に関わらず、全ての子供たちが互いに学び合い、高め合うために必要な支援や配慮を行うことが重要です。

<参考資料>

- 「教育振興基本計画（リーフレット）」《文部科学省》
- 「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」《中央教育審議会》
- 「OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030」《OECD》



「群馬県教育ビジョン（第4期群馬県教育振興基本計画）」はこちら →

エージェンシーを発揮する

「自律した学習者」へ

～「群馬県教育ビジョン（第4期群馬県教育振興基本計画）」の実現に向けて～

／ 幼児教育施設から高等学校まで、全ての学校園で取り組みます ／

自分で学びをつくと
楽しいね



知らないことを
知るのは
うれしいよ

違う考えが
あるから
面白いね



失敗してもいい
自分の言葉で
話そう



社会をつくるのも
変えていくのも
誰かじゃなくて
自分たちなんだ



学校生活の中で、写真のような子供たちの姿が現れるといいですよ。そのためには、子供たち一人一人がエージェンシーを発揮する自律した学習者になっていくことが大切です。

エージェンシー？カタカナで分かりにくいな。自律した学習者？また新しいことをしなければいけないの？

でも、実際は、こんな感じの子が多いな…



間違えているかもしれないから黙ってしよう。
言われたことだけやればいいや。

エージェンシーとは、「人が誰しも生まれついて持っている自分と社会をより良くしようと願う意志、原動力」です。学ぶ内容は、幼稚園教育要領や学習指導要領に示されている内容であり、これまでと変わりません。今、私たち教師に必要なのは、子供たち自身の力を信じ、学びの転換を図ることです。

一斉型の講義を受けるだけの
受動的な学び



能動的で他者と協働した学び
（主体的・対話的で深い学び）

《取り入れたい場面》



子供たちの力を信じるということは、学習の進め方や方法を全て任せて、教師は放任するという意味ではありません。問題を解決していく学びの中で、右に示した場面を意図的に取り入れていくことが大切です。詳しくは見開きをご覧ください。

私たち教師もエージェンシーを発揮し、新しい物事に前向きに取り組み、チャレンジする姿勢や、変わりゆく状況に柔軟に対応できる資質・能力を身に付けていきましょう。

自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す！



● 群馬県教育委員会 平田郁美教育長からのメッセージ ●

子供たちは、生まれながらにして自分と社会をより良くしようと願う意志を原動力にして、爆発的に成長しようとする力を持っています。この力を生かした教育の実現に向けて、失敗を恐れず、試行錯誤しながら取り組んでいきましょう。



メッセージ
動画はこちら

令和6年3月 群馬県教育委員会
（エージェンシーを発揮するための学びを推進するリーフレット）

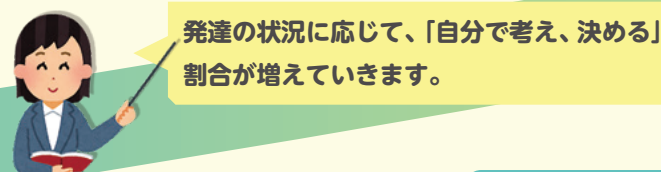
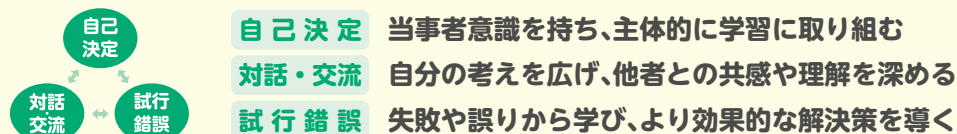
自分事化 自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す！

幼稚園教育要領や学習指導要領の資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）の育成を目指して、具体的な取組の例を示します。

- 《取り入れたい場面》を意識した問題解決的な学びを行いましょう。
 - 教師は見守りつつ、適切な支援（意欲や目的意識を高める問いかけ、比較・分類・関連等を意識した発問等）を行いましょう。
- ※子供たちが好きなことを自由にしていよいということではなく、課題の解決に向け、友達と協働しながら自分たちの力でより良い方法を考えることができるようにすることが大切です。

変化の激しい社会を
自分の力で
歩いていける人

《取り入れたい場面》



ポイント

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置いて、環境の構成をしましょう。

● 水遊びの場面（水遊びおもちゃ）



水が高いところから低いところに落ちる仕組みを利用した「くじらのおもちゃ」を用意して、見守ります。

子供たちが何度も試しながら、あきらめずに自分たちで、「くじらのおもちゃ」から水を出す方法を見付けることができました。

教科学習の素地となる遊びが自然に行われます。

ポイント

「課題を自ら見だし、考える」場面を増やし、自分で学びをつくる楽しさを実感できるようにしましょう。

● 1年算数「ながさくらべ」の比較の仕方について考える場面

友達の粘土と長さを比べたいな。でも動かすと粘土が切れちゃう…



リボンや鉛筆等、比較に使える具体物を用意して、自由に使えるようにします。

リボンを使えば比べられそう。鉛筆何本分でも比べられるかも…



子供たち同士で試行錯誤しながら、長さの比べ方を考えることができました。



総合的な学習（探究）の時間は、実社会や実生活の課題を解決する実践の場であり、そこでの振り返りが各教科等の学びに深まりと広がりを生み出すことになります。

エージェンシーを発揮（自律した学習者）

ポイント

自分で決定し、他者と交流しながら、友達と試行錯誤する場面を増やしていきましょう。

● 1年理科「光の性質」の全身が映る鏡の大きさを考える場面



学習形態や学び方、解決の方法を生徒が選べるようにします。

自分は実際に実験をして確かめたけれど、友達のように前に学んだ作図を使っても予想が合っているといえそうだな。



様々な方法で考えたことを交流する良さを味わうとともに、光の性質を多面的に考えることができました。

総合的な学習（探究）の時間



ポイント

自らの生き方や社会の課題の解決に向けた探究的な学習となるように、単元・題材をデザインしましょう。

● 英語コミュニケーション！ 課題について考察する場面

私たちの身近な地域の課題ってどんなことがあるかな？

Your Project
To work on social issues around you and to give a presentation in English

私たちの町は高齢化が進んでいるよね。

実社会における課題を自分事化し、分析・考察した上で、具体的な提案・解決策を英語でプレゼンテーションする単元をデザインします。

誰もが住みやすい町にするには、どうしたらいいかな？



地域や社会を調べ、試行錯誤しながら課題の解決につながる提言をすることができました。

ポイント

探究意欲（ワクワク感）を高められるような課題と出会う活動を設定したり、やりがいや達成感を味わえるよう、自分の思いを形にする場を設定したりしましょう。

行事等



ポイント

活動自体が目的ではなく、自分たちで行事を作り上げていく意義を実感し、より良い社会を実現するために何ができるかという視点を持って生活できるように支援しましょう。